

令和5年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 第1回学校運営協議会概要

日 時 令和5年5月17日（水）15時～
会 場 大阪府立岸和田高等学校 会議室

学校運営協議会委員

前桃山学院教育大学学長	中西	正人	様
岸城中学校校長	長岡	英晃	様
岸城幼稚園長	小野	舞	様
同窓会会長	新田谷	修司	様
P T A会長	笹島	潤一	様
元後援会会長	山路	明子	様

学校側参加者

校 長	植木	信博
教 頭	岸野	敏昌
事 務 長	中島	徹
首 席	田坂	太一
首 席	中野	健一
進路指導部長	長谷川	武央

2 次第

(1) はじめに（司会：教頭）

① 校長挨拶

- ・学校運営協議会委員をお引き受けいただき感謝する。学校運営協議会は実施要項第4条にあるとおり、学校経営計画や学校評価に関する事項、授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項などについて協議を行い、校長に意見を述べるができる会議である。
- ・委員は保護者、地域住民、学校の運営に資する活動を行う者、学識経験者などの6名である。今年度、お二人の委員が代わられた。それぞれの立場で様々な視点から多くの意見をいただきたい。
- ・会議は5月、10月、2月の年3回開催する。10月の第2回では授業見学もしていただく予定である。
- ・昨年度校長として着任し、特に年度当初は学校経営計画の見直しをはじめ、忙しい日々が続いた。そのことを考えると今年度はここまで落ち着いている。そのためか、4月から今まで時間の過ぎるのを早く感じている。2年めとしてやるべきことを確実にこなしていきたいと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症については感染症法上の位置づけが5類になり、教育活動もコロナ禍以前に戻していきたい。3月にはオーストラリアへの研修を復活させる。ただ、費用が以前の1.5倍ぐらいになっているため、希望者の動向が気になる場所である。修学旅行も今の2年生は沖縄に行くが、1年生は長く行くことができている台湾へと考えている。
- ・昨年度から校長として、これまで本校が行ってきた取組みの検証を行いながら、取組みの改善・充実に努めている。「朝読」の時間については今年度から廃止した。もちろん、読書は重要だが、生徒がその時間を自ら必要と考える時間として有効に活用してもらいたいと願っている。そのため、生徒にとって貴重となる時間を大切にすること、時間管理の重要性を訴えている。

② 学校運営協議員の自己紹介

③ 本校職員の紹介

(2) 協 議

① スクール・ミッション（設置者案）

【報告】

- ・昨年度第2回の会議において、本校が考えるスクール・ミッション案について了承いただき、教育庁に提出した。それに対して昨年度末に教育庁からスクール・ミッション（設置者案）が示された。
- ・学校が考えた案と趣旨は変わっていないが、10年にわたって変える必要のない内容・表現にする、全府立高校において一定の共通化を図るという目的で文言の一部が加筆・修正された。
- ・いくつかのキーワードをつなげ、学校としての生徒に対する「思い・願い」をつなげた文章である。生徒には「自信」「誇り」「高い志」「チャレンジ精神」を持ち、「主体的に学び」ながら、「たくましく生き抜く力」を身に付け、グローバルリーダーとして活躍してもらいたいと願っている。
- ・ここ数年、本校に入学する生徒の自己肯定感は低くなっているのではないかと、岸和田高校に入学したことに対する自信や誇りは薄れてきているのではと感じることもある。生徒には、言われたことをやるのではなく、何よりも「主体的に学ぶ」ということを大切にしてほしい。

【質疑応答】

なし

② 令和5年度学校経営計画（校長より）

【報告】

- ・昨年度校長となり、新学習指導要領の趣旨なども踏まえつつ、文言や内容を大きく整理したところであり、令和5年度学校経営計画として変更したのは一部のみである。
- ・昨年度、グローバルリーダーズハイスクールとして、めざす学校像に「生徒の第一に希望する進路の実現を図る」という文言を入れた。GLHSでは、難関国公立大学への進学実績が評価の対象として重視されている。そのことも意識しながら、校長としては、そこにも示した「幅広い資質・能力」や「豊かな感性」を生徒にしっかりと育みたいと考えている。
- ・育てたい生徒像では「骨太」という言葉を使って表現しているが、先ほどのスクール・ミッションでも話しをした「たくましさ」をしっかりと身に付けさせたい。そのイメージを持って、生徒には「チャレンジ精神と粘り強さ」をと、様々な機会で話しをしている。
- ・中期的目標についていくつか話をさせていただく。土曜日午前中の活用が49%と減少しており、本校が行う土曜学習タイムの取組みの成果を検証しつつ、改善していく必要があると考えている。
- ・「岸高手帳」を活用する割合も39.9%と減少している。先ほども話しをした時間管理の重要性を訴えながら、進路指導部や学年の取組みとして活用者の増加に向けた働きかけを強化している。
- ・本校独自の特徴的な取組みである「スーパークラス」についても検証を行っているところである。
- ・今年度からの主な変更点については、授業改善の取組みとして授業アンケートを活用した「授業振り返りシート」の活用と、3(3)にある校務運営の効率化と生徒と向き合う時間の確保とした、教員の「働き方改革」に関する内容を追加した。今年度から全府立学校において全校一斉定時退庁日の運用が開始されている。本校では水曜日に設定しており、生徒は16:40最終下校である。
- ・昨年度、学校教育自己診断において校長ブログの更新回数が減ったことが指摘されたこともあり、今年度は自分自身のミッションとして頻繁に発信している。

【質疑応答】

(委員) (長岡様)

中学校は部活動の地域化が進んでいるが、高校はどうなっているか。

(学校) (校長)

今年度から「大阪モデル」として府立高校における合同部活動の取組みが始まっている。自転車15分以内という基準のもと41ペア82校がペアリングされている。今年度は土日祝を中心としたものだが、今後は平日にも広げていくことが想定されている。なお、本校は部活動に参加する生徒が多いことから、単独で実施できるという判断により、ペアリングはされていない。

(学校) (中西様)

育てたい生徒像にある「爽やかで骨太」という表現は以前から使用していたか。「爽やか」という表現は抽象的で、どのようなイメージなのか分かりにくいのではないかと。

(学校) (校長)

以前から使用していた。先ほど話しをしていた「骨太」を「たくましく」に変更するのとあわせて変更する方向で検討したい。

(学校) (新田谷様)

土曜日の講習は教員が出てきているのか。働き方改革とは表裏になるのではないかと。

(学校) (校長)

過去はたくさんの講習が行われていたが、現在は以前ほど多くはない。土曜日の講習をなくしても、生徒が自主的に学習してくれるのが一番良いが、教員としては生徒に任せてしまうことに対する不安がある。また、対外的にも、岸和田高校は多くの講習を行い、細やかな対応をしていると発信していることもあるため、土曜日の講習を一切なくすることは難しいと考えている。

③ スクール・ポリシー (校長より)

【報告】

- ・スクール・ポリシーはグラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーからなる学校としての教育活動の指針となるもの。
- ・グラデュエーション・ポリシーは高校3年間で生徒にどのような力を付けるのか、カリキュラム・ポリシーはそのためにどのような教育活動を行うのか、アドミッション・ポリシーはこれまでも示してきたが、入学者の受け入れに関する方針を示すものである。
- ・これらについては、資料に示したとおり、スクール・ミッション、めざす学校像や学校経営計画に加えて、本校の場合はGLHSとしての事業目的なども踏まえ策定することになる。したがって、お示しした案については先ほどから話しをしてきた内容などを踏まえ、学校として育てたい生徒像をイメージしながら文章を考えたものである。
- ・なお、アドミッション・ポリシーについては、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、検討することになっている。

【質疑応答】

(委員) (中西様)

このスクール・ポリシーはどのような根拠に基づき、策定しなければならないとされているのか。

(学校) (校長)

学校教育法施行規則が改正され、高校でもスクール・ミッションを前提として、スクール・ポリシーの策定と公表が求められるようになった。大阪府は現在進行中だが、他府県の高校ではすでに公表されているところが多くある。大学において平成29年度から、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを示さなければならないとされているのと同様である。

(委員) (長岡様)

スクール・ミッションは設置者が示すもので10年間変更しないものであるのならば、高校の学科なども10年間変わらないということになるのか。

(学校) (校長)

本来はそうなるのかもしれないが、学科の改編などがあれば教育活動の方針も変更せざるを得ないため、見直しを行うことになるのだと思う。

(委員) (小野様)

私自身が高校の教育課程について学んでいるが、政治的なところを感じる。

(学校) (教頭)

学校教育計画とアドミッション・ポリシーが既存であり、そこからスクール・ミッションが設定された後、グラデュエーション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを決定することになっているので、既存の2つに寄せる形で作成しているのが実情。

(委員) (小野様)

「高い専門性」とは何を意味しているのか。

(学校) (校長)

本校はすべてのクラスが文理学科である専門高校であり、G L H Sの事業目的では幅広い教養を身に付けとあるが、専門教科を学ぶことを意識し、幅広い教養だけではなく、高い専門性を身に付けるという表現を加えたところである。

④ 昨年度の進路実績 (進路指導部より)

【報告】

- ・例年の数字と比較して大きく変化しているという印象は受けない。
- ・ただ、大学入学共通テストの結果が良かったにもかかわらず、例年と大きく変化していないということは2次試験の力がたりなかったのではないかと考えられる。
- ・特に1, 2年生で学習する内容の定着を図るために模試や考査の取組み、学習時間の確保、学習習慣の確立のために、岸高手帳の利用を促す取組みを進路指導部として考えている。今年度入学した78期では、少しずつ実施しているところである。

【質疑応答】

(委員) (新田谷様)

合格者数ではなく進学先の一覧はあるか。

(学校) (長谷川)

データはあるが今回の資料には載せていない。

(委員) (笹島様)

P T Aの大学見学先を検討したいと考えているが、合格者数は延べ人数か。

(学校) (長谷川)

延べ人数である。

(委員) (新田谷様)

国公立大学の後期で合格する生徒はどれくらいの人数いるか。

(学校) (長谷川)

人数については、はっきりとは分からないが、大阪大学や大阪公立大学を前期試験不合格だった理系の生徒で、後期試験で和歌山大学に合格している印象がある。

⑤ 新1年生 (78期) の状況 (進路指導部より)

【報告】

- ・入学当初に実施しているスタディサポートの結果について、昨年度Sゾーンの人数が例年と比べて減少したが、今年度入学生についてもその傾向はみられる。特に国語は前年との差が大きい。
- ・学習時間は例年通り。ここから学習習慣を確立することを次回8月までの目標として岸高手帳を活用しながら指導をしていきたい。

【質疑応答】

なし

⑥ 広報 / グローバルリーダー養成プログラム (首席より)

【報告】

- ・広報について今年度は学校で4回、校外で7回実施予定であり、全教員に参加協力を依頼する。
- ・グローバルリーダー養成プログラムについては、7月末にG L H S 10校合同でサンフランシスコへの海外研修プログラムが行われ、各校代表3名が参加する。また、8月には本校で校内版のプログラム (英語漬けの4日間) を実施する。さらに、3月には先ほど校長からの話しにもあったとおり本校独自のオーストラリア留学プログラムを実施する。

【質疑応答】

(委員) (長岡様)

泉南地域の中学校の中には職場体験で私立高校に行っている学校がある。

(委員) (笹島様)

制服変更は受験生にとって良い印象を与えていると聞いている。もっとアピールしてほしい。

また演劇部の全国大会出場などについてももっと情報発信してはどうか。

(学校) (校長)

制服の変更をはじめ、本校の取組みについて様々な手段により発信していくようにしていきたい。

(委員) (新田谷様)

実物を見てもらうのが一番良いと思う。

(委員) (長岡様)

中学生は高校の制服への関心が高い。

(委員) (新田谷様)

市町村によっては学校での留学プログラムに対する助成金が出るので、参加する生徒に伝えてあげてほしい。

⑦ 課題研究の取組 (首席より)

【報告】

- ・本校では、生徒が3年間をかけて課題研究に取り組んでいる。主に1年生で基礎学習とテーマ設定、2年生で研究活動とその成果発表、3年生でまとめを行う。校内だけでなく、校外での発表会等に参加する生徒もあり、研究成果が表彰されることもある。
- ・この取組みを通じて生徒が思考力・判断力・表現力や、主体性を身に付けることを目標として、全校体制で指導にあたっている。

【質疑応答】

(委員) (笹島様)

課題研究の取組みはすごく良いと感じるので、発表会をより充実させてもらえたらと思う。

3 今後の予定

- ・第2回 10月11日 (水) 15:00～
- ・第3回 2月14日 (水) 15:00～

4 校長より

本日は長時間にわたり、貴重なご意見をいただいたことに感謝する。先ほど、ここ数年、本校に入学する生徒の自己肯定感は低くなっているのではないかと、岸高に入学したことに対する自信や誇りは薄れてきているのではという話をさせていただいた。また、スタディサポートの結果についても前年度を下回る傾向が見られるが、学校として本校に入学してきた生徒をいかに成長させるかという視点で教育活動の充実に取り組み、生徒の指導にあたっていきたいと考えている。